

# 私学最前線

## わが校の取り組み

### 真の「文武両道」を目指す進学校

溝淵聖豪・学校法人倉田学園香川県大手中前高松中学・高等学校長



香川の県都、高松の地に、1957（昭和32）

年に開校して以来、建学の精神に則り、品位ある人格者を育成すべく、中学生全員に茶道と居合道を正課とするなど、さまざまな施策を講じ、心の教育に特に力を入れている。

中高一貫の6年制、高校から入学する3年制の二つの体制を柱とした進学校として、東大・京大・国公立大医学部などの難関大学をはじめ、有名私立大学に多数の合格者を輩出している。この春は国公立大現役合格者が過去最多になるなど、進学実績は確実に向上している。

#### 【進学指導】

一人ひとりの個性を考慮し、きめ細かく指導が行えるように多数のコース制を採用している。超難関大学や国公立大医学部受験用に特別指導を行う「M講座」も設置している。生徒たちには、入学後も希望と学力に応じてコースの変更が可能であることも励みになっている。さらに、自宅で学習しにくい生徒や部活を終えた生徒の学習時間確保のため、放課後から午後9時まで広い教室を開放し、教員の監督の下、静かな雰囲気の中で各自の計画に合わせた自主学習ができる制度は、全員

の基礎学力の向上に役立っている。

#### 【アクティブ・ラーニングの推進】

2020年度の大学入試制度改革を考慮し、アクティブ・ラーニングに取り組んでいる。課題発見意識を促すために、「知的好奇心を育てる講演会シリーズ」を行っている。ニュートリノ、救急医療、小惑星探査機「はやぶさ」、放射能、大学改革、人工知能など、多岐にわたる分野のノーベル賞受賞者や著名な専門家を招聘し講演会を開催している。講演会で得た知識や、そこから考え学んだことを、仲間と協働して調査を進め、解決策を提示しながら説明するという、全校生徒参加のプレゼンテーション大会を実施している。後日、地元の大主催の大会に自主的に出場して表彰される生徒が現れるなど、その効果は顕著である。

#### 【グローバル教育】

本校は30年前から取り組んできた経験を持つている。まず、英語の技能を高めるために、ネイティブスピーカー3名を配置し、発信力強化に努めている。授業に加え、「English Workshop」と名付けた、昼休みの少人数フリートークは大変人

気がある。また、毎週の全校朝礼でネイティブスピーカーがスピーチを行っている。6年間、または3年間聴き続けることで、聴き取る力が年を追うごとに確実に向上している。中学生に対しては入学前から英会話が得意な生徒のために「Premium English」と名付けた英会話プログラムを設け、会話力が維持・発展する工夫をしている。海外での生活を体験するため、中3の修学旅行はグアムへ行き、現地の学生と積極的に交流している。高1の終わりの春休みにはイギリスへの研修旅行が用意されている。ホームステイをしつつ、ハロウ校やオックスフォード大学などを訪問する貴重な体験ができ、参加者は大きく成長して帰ってくる。

#### 【文武両道】

進学校としての「真の文武両道」を目指し、部活動は多彩で活発である。礼儀・挨拶を重視し、部員全員が大学受験にも取り組んでいる。特に昨年度は特筆すべき年となった。サッカー部は県内の高校による年間リーグ戦で優勝し、四国リーグへと昇格を果たし、今はプリンスリーグ四国を舞台に活躍している。野球部は春季県大会で優勝し、四国大会へは県1位代表として出場した。中・高を連携させて6年間を通した、心技体のそろった成長ができる部活動にするために、中学野球部を来年から強化する予定である。

私学だからこそできる文武両道の理想的な在り方を「文武王道」と呼び、学校を挙げて取り組み、進学校としての教育の充実発展を目指している。